

## ヤマウドの栽培試験

鹿児島県林業試験場 青木 等  
 鹿児島県林業技術研修所 本町 俊雄  
 鹿児島県曾於郡財部町役場 富岡 英治

## 1. はじめに

最近山菜に対する需要が高まっており、県内各地においてもツブキやヤマノイモ等の栽培が急速に進んでいる。

曾於郡財部町では、山菜の一つであるヤマウドの栽培に昭和63年度から取組んでおり成果をあげている。今回、ヤマウドのふかし栽培について調査したので報告する。

## 2. 試験地の概要及び方法

鹿児島県曾於郡財部町の町有の畑(海拔220m, 年平均気温15.5℃)に、平成元年3月に福島県から昭和63年に移入したヤマウドの根株を伏せ込み育成した。

ふかし栽培に供したヤマウドの根株は、平成2年1月17日に掘りおこし2月7日に試験地に伏せ込んだものである。試験区は根株の芽の個数と根株の大きさにより7段階に区分し、4芽株と3芽株の大、中の区別は目測によった。

伏せ込み方法<sup>1)</sup>は、ビニールハウス内(縦15m, 横5m, 高さ2.5m)に長さ8.5m, 幅1.2m, 深さ60cmの試験区を掘り板枠で7等分し、ヤマウドの根株を50ppm

のジベレリンで1昼夜処理してから伏せ込み、土入れをした後に土が湿る程度散水した。さらにモミガラを厚さ30cm程度まで敷き込み、保温のために高さ1mのトンネルを作りシルバーシートをかぶせたもので、根株近くの温度を18~20℃に保つようにするためこのシートで調整を行った。

## 3. 試験結果及び考察

試験に供したヤマウドの形状については表-1のとおりである。

5芽以上の株には概ね7~8個の芽がついており、大きな順から5個計測した。株の重量は900~3,420gで1,000g以下は2株であった。芽の直径は10~30mmで20mm以下の芽が73%である。

5芽調整株(余分な芽を切り落とし5芽に揃えたもの)では、重さは1,010~2,920gで1,000g以下の株はなく、芽は7~38mmで20mm以下は63%である。

4芽大株では、重さは1,120~2,700gで1,000g以下の株はなく、芽は11~41mmで20mm以下は35%である。

4芽中株では、重さは650~1,870gで1,000g以下は12株で2,000g以上はなかった。芽は11~29mmで20mm以下は73%である。

表-1 根株の形状

形状 試験区	根株重量と株数							根株の芽と個数				
	1,000g 以下	1,000~ 1,500g	1,500~ 2,000g	2,000g 以上	総重量	1株当 重量	株数	15mm 以下	16~20 mm	21~25 mm	26mm 以上	芽の総数
5芽以上	2株	10株	17株	11株	73,230g	1,830g	40株	61コ	86コ	41コ	12コ	200コ
5芽調整	-	9	9	10	51,640	1,840	28	30	58	34	17	139
4芽(大)	-	17	15	8	68,970	1,730	40	12	44	44	60	160
4芽(中)	12	21	7	-	48,260	1,200	40	33	84	31	12	160
3芽(大)	8	20	5	-	40,210	1,220	33	5	31	48	15	99
3芽(中)	16	12	4	1	37,550	1,140	33	9	38	36	16	99
2芽	29	9	2	-	35,540	890	40	8	28	28	16	80

Hitoshi AOKI (Kagoshima Pref. Forest Exp. Stn., Kamou Kagoshima 899-53) and Toshio MOTOMACHI (Kagoshima Pref. Forest Training center., Present Address) and Eiji TOMIOKA (Kagoshima Pref. Takarabe Town Public Office., Takarabe Kagoshima 11275) Cultivation test of Yamaudo (*Aralia cordata* Thunb.)

3芽大株では、重さは700~1,870gで、1,000g以下は8株で2,000g以上はなかった。芽は14~36mmで20mm以下は36%である。

3芽中株では、重さは510~2,550gで1,000g以下は16株であり、2,000g以上が1株であった。芽は11~36mmで20mm以下は47%である。

2芽株では、重さは490~1,710gで1,000g以下は29株で2,000g以上はなかった。芽は14~33mmで20mm以下は45%である。

調査した株の重量は、1,500~2,000gのものが最も多く、芽の直径は20mm前後のものが多かった。

ふかし栽培による全収量は表-2のとおりである。1株当たり生産量は、5芽以上の株が最も大きく、次いで5芽調整株、4芽大株、3芽大株、4芽中株、3芽中株、2芽株の順であった。収穫はモミガラの中をかき分け株際を切り取るが、茎を握ると褐変するので注意が必要である。2月7日に伏せ込んでから第1回目の収穫は2月28日で、3月26日まで計7回の収穫であった。発生量は、3月5日、8日、12日が多く、発生期間は47日間であった。

出荷に当たっては、2kg入りで1箱とし、内容は10本以下をA級、10本以上で2kgをB級として都城市場及び鹿児島市場へ出荷したが、1本当たり100g以下の

ヤマウドは出荷対象外とした。値段については、A級が300~500円でB級が140~350円で取引されたが、市場間での価格差はほとんど認められず、出荷日により価格の変動があった。

ふかしたヤマウドは、1本約100gのものでは直径が1.8cm前後が多く、約200gのものでは直径が2.5cm前後のものが多かった。

ヤマウドの出荷量から1株当たりの生産量が最も大きいのは表-3に示すように5芽調整株で、次いで5芽以上株、4芽大株、3芽大株、4芽中株、3芽中株、2芽株の順であり、表-2の全収量とも併せて判断すると、5芽以上株、5芽調整株、4芽大株、3芽大株がふかし栽培用に適すると考えられるが、芽の多くついている株を5芽に調整する必要はないと思われる。

今後の課題としては、芽が多くつき、1株の重量の大きな株の育成技術を開発することが重要である。

また出荷の面からは、全収量の約1割を占める100g以下のヤマウドを商品価値を高めて販売するような努力が必要である。

引用文献

- (1) 鹿児島県林業振興課：山菜花木栽培の手引き，pp. 31~34, 1988

表-2 ふかし栽培全収量

試験区 項目	2芽株	3芽(中)	3芽(大)	4芽(中)	4芽(大)	5芽調節	5芽以上
本数	127本	117本	143本	189本	196本	146本	272本
総重量	18,610g	15,629g	24,110g	27,330g	31,810g	25,390g	39,570g
1株当 生産量	465g	473g	730g	683g	795g	906g	989g

表-3 ヤマウドの出荷量

試験区 項目	2芽株	3芽(中)	3芽(大)	4芽(中)	4芽(大)	5芽調節	5芽以上
本数	90本	100本	125本	156本	163本	126本	194本
総重量	14,150g	14,159g	22,610g	24,820g	29,250g	24,010g	33,640g
1株当 生産量	353g	429g	685g	620g	731g	857g	841g